

2026 年 8 月 31 日

日産自動車株式会社

本田技研工業株式会社

## **日産自動車と Honda 次世代 SDV の中核を構成する ECU やソフトウェアの共通化に向けた 共同開発契約を締結**

日産自動車株式会社（以下、日産自動車）と本田技研工業株式会社（以下、Honda）は、次世代ソフトウェアディファインドビークル（SDV）の中核を構成する複数の ECU（Electric Control Unit）※と、その ECU 上で動作する車載 OS、ミドルウェアと車両制御ソフトウェアの主要部分を共通化することに合意し、共同開発契約を締結しました。

今回共同開発する ECU やソフトウェアを搭載する E&E アーキテクチャーは、2029 年度以降、両社の次世代 SDV への適用を目指します。

日産自動車と Honda は、カーボンニュートラルおよび自社製品が関わる交通事故死者をゼロにすることを目指す取り組みをさらに加速するため、戦略的パートナーシップの枠組みに基づき、さまざまな領域における協業の可能性について具体的な協議・検討を行っています。中でも、知能化・電動化に向けて鍵となる、SDV を中心としたソフトウェア領域は、技術革新のスピードが極めて速く、研究開発スピードや投資効率の向上による競争力強化が喫緊の課題であることから重要な協業スコープの一つと定め、検討を進めてきました。

こうした共通認識に基づく協議の結果、今回両社は次世代 SDV の ECU やソフトウェアの共通化に向けた共同開発契約を締結しました。

具体的には、次世代 SDV に適用する E&E アーキテクチャーにおいて、中核を構成する複数の ECU と、車載 OS、ミドルウェアと車両制御ソフトウェアの主要部分について、両社で共通仕様の構築を進めます。

次世代 SDV の中核となる ECU とソフトウェアの共通化を目指すことで、両社の技術的知見や人材などを融合し、開発リソース、効率の最大化を図るとともに、開発スピードの向上や、スケールメリットの獲得による開発コストの低減など、さらなる競争力の強化を目指します。

日産自動車と Honda は、今後も両社の強みを生かしながら、新たな価値の創出に向けた検討を重ねるとともに、具体的な施策のスピーディな実行に向けて、協業の取り組みを強化していきます。

※SoC を使用する高性能なメイン ECU（High Performance Computer）および車両の各エリアを統括するゾーン ECU